



*撮影の都合上ヘルメットを外しています。

スケートボードが上達したのは 武蔵野ストリートスポーツ広場のおかげかな

瀬尻 稜さん

プロスケートボード選手



瀬尻 稜（せじり・りょう）

1996年生まれ。5歳でスケートボードを始め、8歳のとき全日本アマチュア選手権で優勝、2006年にプロ昇格。11歳のときプロクラスグランドチャンピオンを史上最年少で獲得。2015年、世界最高峰リーグ「Street League」に日本人として初出場、世界大会で5度の優勝経験がある。2021年の東京オリンピックではスケートボード部門の解説を担当、くだけた口調が話題になり、「ゴン攻め/ビッタビタ」が新語・流行語大賞トップテンに選出された。

父親が持ってきたボードでスケートボードを始めたのが5歳のとき。ちょうどその頃、武蔵野ストリートスポーツ広場ができたんです。初めは楽しく滑ってたんだけど、小学2年生のときに大会で優勝したあたりから、サーフィンをやっていた父親が「見込みがある」と思ったのか猛特訓がスタートしました。練馬区内の自宅から一番近いパーク（練習場）がこだったので、中学生くらいまではほぼ毎日、学校帰りに練習しに came ました。ここに来ると知らないお兄ちゃんたちが優しく教えてくれて、学校とは違うコミュニティがありましたね。ヘルメット必須だし、礼儀正しい人が多くて初心者でも安全に滑れる。今思うと、ここのおかげで上達できたのかなと思います。

スケートボードが正式種目になっ

た2021年の東京オリンピックでは解説を担当しました。実況を担当したフジテレビの倉田大誠アナウンサーと局からは「普段の言葉遣いでもいいから」と言われていて、事前にほかの大会の映像を見ながら練習もしました。スケートボードのコミュニケーションの雰囲気は少しでも伝わったんじゃないでしょうか。

東京オリンピックでは堀米雄斗や四十住さくらなど日本人の若い選手が大活躍したし、世界大会で勝てる選手も増えてます。日本のレベルはこのまあいっところまでいくんじゃないかな。でも、認知度は上がったものの、まちなかでどう頭を使って滑るかっていうスケートボード本来の面白さが日本では認められてないなとも感じます。カルチャーとしてのスケートボードへの理解がもう少し進むといいなと思いますね。